

事業所名

放課後等デイサービス　マイステージひまわり此花

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

12 月

25 日

法人（事業所）理念		誰もが自分らしく生きれる社会をつくる～どんな障がいを持っていても一人ひとりの自己実現（夢・自分らしさ・可能性）と地域生活のサポートを続ける～										
支援方針		・児童に「できる」喜びを覚えてもらう。→成功体験から自分自身への自信と物事に積極的に取り組む姿勢を養う。 ・一つの物事に集中して取り組める落ち着きを養う。→学校や社会に適合が出来、学力や能力UPにつなげる。 ・集団行動を通じてルール、決まり事を守るようにする。→将来的に社会の一員として自立した生活を送れる力を養う。										
営業時間		10 時		30 分		から 17 時		30 分		まで 送迎実施の有無		あり
		支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	健康と生活における基本的な習慣を身につけ、日常生活の自立を目指します。 衛生管理の習慣化：手洗いや着替えの練習を通じて、清潔な生活習慣を身につける。 生活リズムの調整：来所後のルーティンや活動の時間を整え、切り替えなどがスムーズに行え安定した日常を送れるよう支援。 リラクゼーション活動：個室での活動や静かな時間を設け、心と体のリラクックスを促進。										
	運動・感覚	体を動かすことや感覚刺激を通じて、運動能力や身体感覚の発達をサポートします。 粗大運動：トランポリンやボール遊びでバランス感覚や筋力を育てる。 微細運動：パズルや紐通し遊びを通じて、手先の器用さを高める。 感覚統合療法：ブランコやふわふわマットを使い、触覚や前庭感覚の過敏さを和らげる。 体を動かすリズム活動：音楽に合わせてダンスや体操を行い、体の動きとリズム感を調和させる。										
	認知・行動	集中力や問題解決能力を伸ばし、自己コントロールを学ぶ支援を行います。 課題遂行トレーニング：簡単なパズルやカードを使って、達成感を味わう体験を提供。自己調整スキルの強化：ルールを守る練習や、待つこと・交替することを学ぶ。 感情コントロール：怒りや不安を表現するための絵やカードを使ったトレーニング。 視覚的な手がかり：スケジュールボードやピクトグラムを活用し、行動の見通しを持てるようにする。										
	言語 コミュニケーション	言語的・非言語的なコミュニケーション能力を伸ばし、自分の気持ちや意思を伝える力を養います。 言葉の練習：絵本やカードを使い、単語やフレーズの理解を深める。 対話の練習：質問応答や簡単な会話のキャッチボールを通じて、コミュニケーションの楽しさを学ぶ。 非言語コミュニケーション：表情やジェスチャーを通じて気持ちを伝える練習。 補助ツールの活用：言葉が苦手なお子様には、AAC（補助代替コミュニケーション）ツールを使用。										
	人間関係 社会性	療育を通して他者との関係性を築き、社会でのルールやマナーを学びます。 グループ活動：工作やゲームなど、他の子どもと協力する場を提供。 ロールプレイ：「ありがとう」「ごめんなさい」など、実生活で使えるスキルを練習。 順番待ちの練習：順番を待つ、譲るといった社会的行動を学ぶ。 他者への配慮：他人の気持ちを理解するために、絵本や簡単なストーリーを通じて感情移入の機会を提供。										
家族支援		保護者や家族が子どもの成長を支える力を引き出し、家庭での療育や日常生活の支援がスムーズに行えるようサポートします。 相談支援：子どもの発達や行動に関する悩みや不安について専門的なアドバイスを提供します。定期的な個別面談や保護者会を開催 家庭での療育方法の指導：家庭でも取り組める療育方法を提案し、親子で一緒にできる簡単な遊びや活動を紹介。たとえば、「感覚刺激遊び」や「言語発達を促す会話のヒント」など。						移行支援		進学、就労、または社会生活への移行をスムーズに行えるようサポートします。 進学支援：学校選びのアドバイスや、入学前の学校との連携（見学や相談）を行います。また、集団活動や学習に必要なスキルを養うプログラムも実施します。 就労準備：中学生以上のお子様には、簡単な作業トレーニングや社会的マナーの指導を行い、将来の就労に向けた基礎を作ります 自立生活の準備：自分で時間を管理する練習を行い日常生活での自立を促します。		
地域支援・地域連携		地域全体で子どもたちを見守り、支える環境を作るための取り組みを行います 。療育プログラムを通して地域の方との交流を図ります。						職員の質の向上		専門職の意見を取り入れながら、日々療育についての会議を行い、技術や知識だけでなく療育に対する姿勢やかかわり方等の研修を行っています。		
主な行事等		年間を通しての祝日プログラムの実施。保護者参加の年始イベント等。										

事業所名

児童発達支援　マ이스テージひまわり此花

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

12 月

25 日

法人（事業所）理念		誰もが自分らしく生きれる社会をつくる～どんな障がいを持っていても一人ひとりの自己実現（夢・自分らしさ・可能性）と地域生活のサポートをし続ける～													
支援方針		・児童に「できる」喜びを覚えてもらう。→成功体験から自分自身への自信と物事に積極的に取り組む姿勢を養う。 ・一つの物事に集中して取り組める落ち着きを養う。→まずは基礎感覚を強化し、発達の基礎を高めていくアプローチを行う。 ・集団行動を通じてルール、決まり事を守るようにする。→小学校生活に向けての他者とのコミュニケーションを深める。													
営業時間		10 時		30 分から		17 時		30 分まで		送迎実施の有無		あり		（年長のみ送迎対応）	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	未就学児が日常生活を送る上で必要な基礎的な生活習慣や健康管理のスキルを育てます。 生活リズムの確立:起床・食事・睡眠といった基本的な生活リズムを整えるための支援を行います。日常のルーティンを視覚的に示すカードなどを活用します。 身の回りのことの練習:手洗い、トイレトレーニング、衣服の着脱などを個々の発達段階に合わせて練習。成功体験を重ねることで自信を育てます。 食事の支援:偏食や食べこぼしがある場合、少しずつ改善できるようサポート。例えば、スプーンやフォークの使い方や新しい食材へのチャレンジを支援します。 安全意識の育成:道路の歩き方や危険物への対処方法を選びの中で学び、安全に過ごす力を育てます。													
	運動・感覚	体を動かす楽しさを体験させることで、運動能力や感覚処理のスキルを高めます。 粗大運動:トランポリンや平均台、滑り台などを使い、バランス感覚や筋力を発達させます。 微細運動:積み木や紐通し、粘土遊びなどを通じて、手先の器用さを養います。 感覚統合支援:触覚、聴覚、前庭感覚などの刺激に対して過敏または鈍感な場合、それに合わせた遊び（砂場遊び、ふわふわボールでのマッサージなど）で感覚の調整を行います。 リズム活動:音楽に合わせて動いたり、手拍子をしたりすることで、体と感覚の統合を図ります。													
	認知・行動	集中力や問題解決能力を伸ばし、自己コントロールを学ぶ支援を行います。 認知スキルの育成:簡単なパズルや色分けゲームを通して、考える力や記憶力を高めます。 行動の見通しを持つ練習:活動の順番やルールを視覚的に伝えることで、行動への見通しを持たせ、安心感を与えます。 ルール理解の支援:「順番を守る」「待つ」といった集団でのルールを選びを通じて学びます。 自己調整の練習:感情が高まったときの対処方法（深呼吸、静かな場所に行く）を教え、自己コントロール力を養います。													
	言語コミュニケーション	言葉や非言語的な方法で自分の意思や感情を伝える力を育みます。 言葉の発達支援:絵本の読み聞かせや、カードを使った単語学習で、語彙力や発音を促します。 非言語コミュニケーション:ジェスチャーやピクチャーカードを用い、言葉以外の方法で意思を伝える練習を行います。 簡単な会話の練習:質問に答える、簡単なあいさつをするなど、日常生活で使える会話を遊びながら学びます。 表現力を高める遊び:おままごとやごっこ遊びを通じて、自分の感情や考えを自然に表現する力を育てます。													
	人間関係社会性	他者との関係性を学び、集団生活での社会性を身につけます。 集団での活動:歌や体操、ゲームをみんなで行うことで、協調性やルールを守る力を育てます。 他者への配慮:「ありがとう」「ごめんねだい」などの基本的なやりとりを練習します。 ロールプレイ:スーパーでの買い物やバスに乗るなどの場面設定を通じて、実社会での行動を学びます。 他の子どもとの交流:一緒に遊ぶ体験を通じて、友だちづくりやコミュニケーションスキルを伸ばします。													
家族支援		保護者や家族が子どもの成長を支える力を引き出し、家庭での療育や日常生活の支援がスムーズに行えるようサポートします。 相談支援:子どもの発達や行動に関する悩みや不安について専門的なアドバイスを提供します。定期的な個別面談や保護者会を開催 家庭での療育方法の指導:家庭でも取り組める療育方法を提案し、親子で一緒にできる簡単な遊びや活動を紹介。たとえば、「感覚刺激遊び」や「言語発達を促す会話のヒント」など。						移行支援				未就学児がスムーズに次のステップ（幼稚園、保育園、小学校）に進めるように支援を行います。 進学準備:子どもの特性やニーズに合った教育機関を選ぶサポートを行います。 集団行動の練習:座る、待つ、順番を守るなど、幼稚園や学校生活に必要なスキルを遊びや活動を通じて学びます。 新しい環境への慣らし支援:入園や入学前に模擬的な活動を行い、新しい環境への不安を減らします。例: グループ活動や読み聞かせなどの実施。			
地域支援・地域連携		地域資源の活用:図書館、公園、スポーツクラブなど、地域の施設やサービスを利用できるよう支援します。 他機関との連携:医療機関、保健センター、特別支援学校などと情報を共有し、子どもが必要な支援を一貫して受けられる体制を整えます。 福祉サービスの橋渡し:障害福祉サービスや地域のサポートグループへの紹介を行い、家庭が地域の支援ネットワークを活用できるよう支援します。						職員の質の向上				専門職の意見を取り入れながら、日々療育についての会議を行い、技術や知識だけでなく療育に対する姿勢やかかわり方等の研修を行っています。			
主な行事等		年間を通しての祝日プログラムの実施。保護者参加のイベント等。													